



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

2型糖尿病の病態解明へむけて 細分化・集積

[当法人評議員]

国家公務員共済組合連合会 立川病院
 矢島 賢 [医師]

毎年5月は日本糖尿病学会が開催されますので、今月の巻頭言のテーマは「糖尿病:2型糖尿病」について述べてみたいと思います。

ご存知のように「糖尿病」は“血糖値が高い”ということで診断されます。「糖尿病」自体「症候群」のようですが、「2型糖尿病」は、1型糖尿病、その他の糖尿病、妊娠糖尿病を除く糖尿病がすべて一つの疾患としてくられてしまっていますので「2型糖尿病」は「症候群のなかの症候群」といえるでしょう。

「2型糖尿病」患者には、やせている方、肥満の方、高齢者、若年者、家族歴の濃厚な方、孤発例とさまざままいらっしゃいます。その病態としてインスリン分泌不全やインスリン抵抗性といった言葉で説明されてはいるものの、あまりに漠然としています。「2型糖尿病」はみんな同じ病態なのでしょうか？

糖質過剰摂取で運動不足の高度肥満「2型糖尿病」を例に病態について考えてみましょう。おそらく大量に蓄積している内臓脂肪によりアディポカインのバランスが崩れ、肝臓や筋肉、脂肪での糖取り込みが悪化し、それを代償しようとして高インスリン血症となっているが、インスリン抵抗性が強く相対的インスリン不足となり高血糖をきたしていると考えられます。この方を治療するにあたって、まずは糖質の過剰摂取を抑えることを中心とした食事指導、けがをしないような適度な運動をすすめ、その上で薬物療法を考慮するのであれば、インスリンやSU薬はできる限り使用せず、ビッグアナイド薬、SGLT2阻害薬、GLP-1製剤などを念頭に置くのではないのでしょうか。この治療方針は、分子生物学の発展による肥満糖尿病、メタボリックシンドロームの病態解明とこれまで我々の先人が行ってきた治療経験、最近の糖質制限食による治療効果などから立案することはさほど困難ではないと思います。実際、薬物を使用せずとも食事指導だけでみるみる体重が減り、入院適応レベルの血糖コントロールがほぼ正常まで改善するケースはみなさんも経験がありますよね。

しかし、食事療法だけでうまくいく方もいればあらゆる治療を行っても難渋する方もいます。なぜでしょうか。食事療法を行っていないのでしょうか？実は定説となっている肥満糖尿病の病態とは異なる肥満糖尿病患者がいるかもしれません。

同じ「2型糖尿病」でもやせ型の病態はどうでしょうか？家族歴が濃厚の方は家族同胞とも同じ病態なのでしょうか？だとしたら同じ治療法が効果的なのでしょうか？現在「2型糖尿病」患者に処方している薬は、その方に本当に効果があるのでしょうか？

これから「2型糖尿病」は、類似した患者背景や病態、あるいは薬剤による治療効果などで細分化・集積され、その過程で各グループでの糖代謝異常の原因が解明されていくでしょう。そして患者さん一人一人の病態を詳細に明らかにし、ピンポイントで治療法を提案できる個別化医療“precision medicine”がまもなくやってくると思います。と同時に、「2型糖尿病」が生活習慣の影響を多分に受ける疾患であるということもあらためて認識させられることになるのだらうとも。

読んで
 単位を
 獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
 (「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 糖尿病腎症の病期分類で第3期にあてはまるものはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります。)

1. 尿中アルブミン排泄量20mg/gCrかつeGFR 70mL/分/1.73m²
2. 尿中アルブミン排泄量20mg/gCrかつeGFR 50mL/分/1.73m²
3. 尿中アルブミン排泄量400mg/gCrかつeGFR 70mL/分/1.73m²
4. 尿中アルブミン排泄量400mg/gCrかつeGFR 50mL/分/1.73m²
5. 尿中アルブミン排泄量400mg/gCrかつeGFR 20mL/分/1.73m²



報告

第7回薬剤師糖尿病指導研究会

日時:平成29年2月4日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

平成29年2月4日(土)さくらホールにて、『第7回薬剤師糖尿病指導研究会』が開催された。

第Ⅰ部では、「糖尿病腎症と透析について」を福岡利仁先生(杏林大学医学部付属病院)にご講演頂いた。CKDの定義や透析導入・透析の仕組みについてなど、また糖尿病性腎症の管理についてわかりやすく解説して頂いた。

第Ⅱ部は、小林庸子先生(杏林大学医学部付属病院)と森貴幸先生(株式会社大和調剤センター)より「薬剤師からみた糖尿病腎症と透析予防」について病院の薬剤師と調剤の薬剤師の立場からご講演頂いた。

杏林大学病院では糖尿病療養指導外来を行っており、その中に透析予防管理もある。チーム指導による糖尿病透析予防指導管理下での使用薬剤による腎機能への影響に関する3年間のアウトカムについて、また森

先生からは薬剤師による患者支援についてPHOND研究を紹介して頂いた。プログラム参加者の満足度は高く、薬剤師支援の質の高さが確認された結果となりHbA1c高値の高齢の対象者で低下する傾向が見られた。コーチングは、服薬指導の充実にも影響し、病気に対して前向きに取り組もうとする姿勢への動機づけとなりうるという内容であった。

当日は68名の先生方にご参加頂き、第Ⅲ部の総合討論でも多くの質

問を頂き活発な意見交換がされ盛り上がり勉強意識の高い有意義な会となった。



報告

第40回糖尿病連絡会

日時:平成29年2月15日(水)

場所:スカイタワー西東京大会議室

2月15日水曜日、スカイタワー西東京の会議室において第40回糖尿病連絡会が開催されました。当日は医師・コメディカルを含め26名の参加で盛況に終了することが出来ました。

教育講演として新代表世話人 公立昭和病院 内分泌・代謝内科 部長 高橋克敏先生から「脂質異常症Up-to-date」をテーマに、TGやLDL-C管理はスタチンで開始され、それでも管理不十分な際は、抗PCSK9抗体製剤が市場に登場し治療選択幅が広がり期待感を込められていました。更に遺伝・環境因子が関与するFHの概念・診断法にふれ臨床例を提示。遺伝カウンセリング可能施設として、公立昭和病院が取り組みを始めFHを日常臨床で拾い上げる必要性をご講演頂きました。

特別講演として東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 助教 川上貴久先生から「糖尿病性腎症Up-to-date」をテーマに、糖尿病性腎症の概念の変化として糖尿病性腎症で蛋白を認めないケースは、尿蛋白を認める前に腎機能が低下するパターンが存在することに触れられました。糖尿病性腎症治療の現在と未来へと題し、

現在はSGLT2阻害薬による心血管・腎血管イベントの抑制効果を大規模エビデンスと糖尿病性腎症モデル動物を用いた効果について解説されました。更に開発中の新規治療として、高尿酸血症への介入とNrf2拮抗薬について大規模試験を紹介。糖尿病性腎症の治験のエンドポイントとして、臨床的エンドポイントのガイドライン案として分かり易くご講演して頂きました。



高橋先生



川上先生



第51回糖尿病学の進歩

平成29年2月17日(金)・18日(土)

国立京都国際会館

レポート1

東京都立多摩総合医療センター

関根 哲生 [医師]

2017年2月17日から18日の2日間、国立京都国際会館で開催された、第51回糖尿病の進歩に参加しました。今年度は糖尿病学会、内分泌学会の各年次学術総会も同会場で行われており、勝手知ったるなんとやらで、会場内をうろうろしながら聴講していました。今回は聴講した講演からトピックスについてご報告いたします。

弘世貴久先生(東邦大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌学分野)によるグリニド薬についての講演では、インスリン強化療法からの離脱の橋渡しとしてのグリニド薬の重要性についてのデータが示されました。

穴澤貴行先生(京都大学医学部附属病院肝胆膵・移植外科)による膵・膵島移植についての講演では、残念ながら日本では一般的とはいえない膵・膵島移植の実情について海外との比較を交えつつ報告がありました。件数は少ないながらも成績については海外と遜色なく、移植医療が普及さえすれば今後の糖尿病治療の選択肢の一つになりうると感じました。

北谷真子先生(天理よろづ相談所病院)による行動変化ステージについての講演では、我々医療者と患者側との意識の違いについて気づかされました。入院病棟では準備期と考えて接してしまうことも多いですが、実際には前熟考期であることも多く、そのギャップから入院効果がいまひとつであったり治療中断につながったりしてしまうこともあり、改めて各々の受け入れ状況を見極めて接することの重要性を認識しました。

最後に余談ですが、1日目の夜に行われた懇親会では数あるメニューから真っ先にサラダが売り切れたのには、さすが糖尿病の学会とうなられました。ベジタブルファースト、患者さんに指導するには、まずは自らが実践していかないといけないですね。以上のように大変多くのことを学べたとともに、糖尿病心理について考えさせられた会となりました。

2017年2月17、18日の2日間、第51回糖尿病学の進歩に参加しました。今回は、高齢者の治療に対する企画が多くありました。

世話人特別企画「在宅糖尿病患者のケア」では各職種からそれぞれの立場でお話をいただきました。

大阪大学 藤原優子先生からは、次々と新しい薬剤が登場するが、認知の問題がある高齢者には、複雑すぎて理解できていない場合が多いこと、治療効果が高くて経済的に選択できない薬剤もあること、医療者と本人の望むゴールが必ずしも一致しないことなど、患者さんの気持ちに寄り添う看護師ならではのお話がありました。

福岡クリニック 中村育子先生からは、高齢者の場合、問題なく食事をしているように見えても、主食と総菜の1品もののおかず(コロッケ、てんぷらなど)だけだったり、野菜は漬物のみだったり、栄養が非常に偏っている場合が多いとお話がありました。ヘルパーが入っていても、必ずしも糖尿病療養の知識があるわけではなく、食材の準備や料理を作る人の理解度に見合った指導が必要とのことでした。「品数を増やさず、入れる具材を増やす」「今より〇〇」を繰り返す、など明日からの指導に使える一言をいただきました。

他にも心のケアや運動療法など、盛りだくさんのプログラムで多くの学びがありました。患者さんの豊かな人生を支えるために今後の指導に活かしていきたいと思えます。

レポート2

東京都立多摩総合医療センター

曾我 和代 [管理栄養士]

読んで単位を
獲得しよう

答え 3, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

糖尿病の病期分類は2014年1月に改定され、3期を2つに分けることをやめ、1～5期となり、それぞれを尿中アルブミン・蛋白(クレアチニン換算値)、GFR(eGFR)で規定することとなった(右表参照)。

1. × (1期) 2. × (1期) 3. ○ (3期)
4. ○ (3期) 5. × (4期)

病期	尿タンパク値(g/gCr) あるいは アルブミン値(mg/gCr)	腎機能・GFR(eGFR) (ml/分/1.73m ²)
第1期 (腎症前期)	正常 (30未満)	30以上
第2期 (早期腎症期)	微量アルブミン尿 (30～299)	30以上
第3期 (顕性腎症期)	顕性アルブミン尿(300以上) あるいは 持続性タンパク尿(0.5以上)	30以上
第4期 (腎不全期)	問わない	30未満
第5期 (透析療法期)	透析療法中	

研究会等のセミナー・イベント情報

 直接事業
 間接事業
 その他

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第61回例会

 申込不要

テーマ：『超高齢時代のインスリン治療』

開催日：平成29年6月3日（土）15：15～18：50

場所：ルミエール府中 コンベンションホール飛鳥（京王線「府中駅」下車 徒歩6分）

参加費：当法人会員 無料 / 一般 1,500円

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

詳細資料の
同封あり

 西東京CSII普及啓発プロジェクト第11回研修会

 申込必要

演題：『Libre時代のCSII療法』

開催日：平成29年6月20日（火）19：20～21：00

場所：立川相互病院横 薬局棟2階 講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

※4月号で掲載した「国分寺労政会館」から会場が変更になりましたのでご注意ください。

参加費：無料

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/13締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位申請中

詳細資料の
同封あり

 西東京CDEの会 第16回例会

 申込必要

テーマ：『CDEがこれからの介護（在宅医療）を学ぶ』

開催日：平成29年6月24日（土）15：30～19：00

場所：府中市立中央文化センター ひばりホール（京王線「府中駅」下車 徒歩5分）

参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 2,500円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。（6/17締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

詳細資料の
同封あり

 平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

 申込必要

<看護系> 第14回 西東京糖尿病教育看護研修会

<栄養系> 第14回 西東京病態栄養研修会

<薬剤系> 第14回 西東京薬剤研修会

<臨床検査系> 第2回 西東京臨床検査研修会

<運動療法系> 第2回 西東京運動療法研修会

開催日：平成29年7月9日（日）9：25～16：55（開場9：10）

場所：駒沢女子大学

（京王相模原線「稲城駅」下車 小田急バス約7分 または 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車 小田急バス約20分）

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/9～5/21] 5,000円 / 通常[5/22～6/30] 6,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の「平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラムの申込はこちらから」よりお申込みください。（6/30(金)締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は<第1群>の単位数は、研修会毎に異なります。また<第1群>と<第2群>の単位はどちらか一方のみ認められます。

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



今年の糖尿病学会は名古屋ですね。発表される方などは準備に追われているのではないのでしょうか。今回は会場の都合で一般演題の多くがポスター発表になったそうです。地下駐車場にもポスター会場があるようで、何だか凄そうですね。運営事務局のご苦勞が偲ばれます。何はともあれ、皆様にとって有意義な学会になりますように。もちろん名古屋めしも楽しみましょう。（広報委員 杉山 徹）